

鳥獣被害防止総合支援事業評価報告書（平成28年度報告）

市町村名	富士見町
事業実施主体名	富士見町有害鳥獣対策協議会

1 被害防止計画の特徴等

対象鳥獣が多いため、複合的な対策を行うための計画となっている。

2 事業効果の発現状況

（地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。）  
 ・電気柵で町内をほぼ囲ったため、以前に比べコウゾウカによる農作物等の被害額は減少している。  
 ・電気柵監視通報システム等のICT技術を利用し、対策への負担軽減が図られている。

3 被害防止計画の目標達成状況

（被害防止計画の目標の達成状況を記載する。）  
 ・多くの協力の下、計画していた対策取組はほぼすべて実施できたが、軽減目標の数値には至らなかったため、計画の見直し・分析が求められる。

4 被害防止計画の達成状況

対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
									被害金額			被害面積				
									目標値 (千円)	実績値 (千円)	達成率 (%)	目標値 (ha)	実績値 (ha)	達成率 (%)		
富士見町	乙事地区 池袋地区	コウゾウカ ニホンザル イノシシ	侵入防止柵 (電気柵)	1,200m	各集落	H26.12	100%	侵入防止柵の設置により、農作物被害だけでなく、動物と車両の接触事故も減少した。	763	1489	-317	0.62	0.821	-105.8	・侵入防止柵を設置した地区での被害は減少したが、町全体では被害額は増加している。 ・コウゾウカに発信機を取り付け、受信機で行動圏を調査することで、群れのおおよその規模と活動範囲を特定することができ、捕獲に関する計画が立てやすくなった。 ・計画策定時に被害対策の最優先事項としていたコウゾウカの被害は大きく減少したが、ニホンザルの被害が急激に増えており、対応が追い付いていない状態となっている。 ・電気柵のしっかりとした維持管理が今後の課題	○電気柵については今後も漏電等がないよう管理維持の徹底に努められたい。  ○個体群識別調査やGPSによりサルの行動圏データが蓄積されつつある。データを分析して群れを把握し、個体を識別しながら数を調整していく必要がある。
			侵入防止柵 (ネット柵)	2,150m	集落	H26.5	100%		1730	1172	107.5	3.82	3.571	21.7		
	富士見町 全域	コウゾウカ ニホンザル イノシシ ハクビシ	緊急捕獲	コウゾウカ(オス) 274頭 コウゾウカ(メス) 454頭 ニホンザル 104頭 イノシシ 17頭 ハクビシ 18頭	富士見町	-	-	捕獲により生息数を減らすことができ、特にコウゾウカによる農作物被害は減少した	21	39	-257.1	0.01	0.04	-1000		
協議会	富士見町 全域	コウゾウカ ニホンザル イノシシ ハクビシ キツネ タヌキ アナグマ	電気柵監視通報システム	4基	集落	H27.3	100%	電気柵の見回り・保全に関する負担が軽減した。								
			くくりわな	92基	猟友会	H27.3	100%	捕獲に関する狩猟者の、ハード面の負担が軽減した								

			ニホンサル	ニホンサル個体群 識別調査	1式	富士見町	H27.2	100%	今後の捕獲に関する基礎データ が入手できた。										
富士見町	若宮地区 池袋地区	H27	ニホンジカ ニホンサル イノシシ	侵入防止柵 (電気柵)	1,489m	各集落		100%	侵入防止柵の設置により、農作物 被害だけでなく、動物と車両の接 触事故も減少した。										
	富士見町 全域		ニホンジカ ニホンサル	緊急捕獲	ニホンジカ(オス) 150頭 ニホンジカ(メス) 311頭 ニホンサル 70頭	富士見町	-	-	捕獲により生息数を減らすことが でき、特にニホンジカによる農作物被 害は減少した。										
協議会	富士見町 全域	H27	ニホンジカ ニホンサル イノシシ	電気柵監視通 報システム	6基	集落	H28.3	100%	電気柵の見回り・保全に関しての 負担が軽減した。										
			ニホンジカ ニホンサル イノシシ ハクビシ キツネ タヌキ アナグマ	小型捕獲檻 足くくりわな サル用捕獲檻 監視カメラ デジタル簡易 無線機	3基 176基 14基 15基 20基	富士見町	H28.7 ~ H28.3	100%	有害鳥獣の捕獲に関する各事業 に必要な物品を購入できた。										
			ニホンサル	ニホンサル個体群 識別調査	1式	富士見町	H28.3		ニホンサルの捕獲に関する基礎デー タが入手できた。										
富士見町	下蔦木地 区 池袋地区	H28	ニホンジカ ニホンサル イノシシ	侵入防止柵 (電気柵)	1,133m	各集落	H29.1	100%	侵入防止柵の設置により、農作物 被害だけでなく、動物と車両の接 触事故も減少した。										
	富士見町 全域		ニホンジカ ニホンサル	緊急捕獲	ニホンジカ(オス) 119頭 ニホンジカ(メス) 281頭 ニホンサル 32頭	富士見町	-	-	捕獲により生息数を減らすことが でき、特にニホンジカによる農作物被 害は減少した。										
協議会	上蔦木地 区	H28	ニホンサル	ニホンサル被害対 策モデル集落運 営事業	1式	富士見町	H29.1	100%	地域住民の自主的な取り組みを 支援するための複合的な研修・実 習を実施した										
	富士見町 全域			移動組立式ニホ ンサル用囲いわ な	1基 5基		H28.8 ~ H28.10	100%	行動調査で把握したニホンサルの動 きに合わせ、群れ単位でも捕獲で きるよう購入し、捕獲活動を行った										
				GPS発信機 電波受信機	2基 2基		H28.9	100%	今までは委託して調査していた ニホンサルの行動圏を、町が主体と なって把握できるようになった										

注：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

## 5 第三者の意見

鳥獣被害対策において、現状把握ならびにそれに基づく評価検証は必須となっている。その点において、富士見町での取り組みは、的確に対象を把握し、対策を行っていると思われる。また、地域ぐるみで行うといった点でも、町担当者がまず仕組みや手法を学び、住民からの質問に対応している姿勢は大変重要である。担当者が司令塔となることで、地域に主体性が生まれ、また必要な部分において専門家の活用が可能となる。今後、このように取り組んできた内容を、現状に基づいたPDCAを専門家の分析のもと精査し、より実効精度の高い計画を作成、履行することが求められる。(特定非営利活動法人甲斐けもの社中 理事長 山本圭介)